
2050年の世界の廃棄物発生量の推計は320億トン

～最新のGDP、人口、廃棄物関連データを使用し推定値を更新し、2020年改訂版として公開～

株式会社廃棄物工学研究所（本社：東京都港区 代表取締役 田中 勝）は、本日、2000年から2050年における世界の廃棄物発生量等の最新の推計値をまとめた「世界の廃棄物発生量の推計と将来予測 2020年改訂版」を環境省の記者クラブで資料配布し、田中からその概要を説明し、質疑応答するという形でプレス発表し公開しました。

同改訂版によると、2000年の世界の廃棄物発生量の推定値は76億トンであり、これに対して2020年、2025年の推定値は140億トン（86%増）、170億トン（120%増）と急増しており、2050年における予測値は320億トンであり、2000年に比べて320%増と大きく増加すると予測された。

また、2000年から2050年にかけて、人口は61億人から97億人へ約60%（国連予測）増加し、GDPは34兆ドルから約260兆ドルへと約680%の増加が予測される。一般廃棄物は12億トンから約40億トンへ240%増し、産業廃棄物は64億トンから280億トンへと約340%増し、GDPの増加率680%ほどではないが大幅に増加している。

なお、本改訂版は、2011年に発表した「世界の廃棄物発生量の推計と将来予測 2010年改訂版」（株式会社廃棄物工学研究所、代表取締役田中 勝）について、（株）廃棄物工学研究所が、2019年時点で得られる最新のGDP、人口、廃棄物関連データを用いて、2000年から2050年までの廃棄物発生量等の推測値及び予測値を更新したものである。

詳しくは、株式会社廃棄物工学研究所のホームページにてご覧ください。

<http://www.riswme.co.jp/>

株式会社廃棄物工学研究所は、資本金1,000万円。2005年から5年間行われた、岡山大学21世紀COEプログラムの「廃棄物マネジメントに関する教育研究の世界的拠点づくり」の成果を継承発展するために、現代表が岡山大学発のベンチャー企業として2007年4月に設立。廃棄物マネジメント全般に関する指導、廃棄物工学専門家教育、世界の廃棄物処理に関する情報提供サービス等を行っている。また、現代表が岡山大学時代に、廃棄物発生量の将来予測を世界規模で行った調査の予測データ2000年版とその後作成した2010年版は、環境省の「環境・循環型社会・生物多様性白書」にも採用・掲載された。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社廃棄物工学研究所
岡山オフィス 江口恵子
TEL/ FAX : 086-239-5303
E-mail:info@riswme.co.jp